

平成20年2月20日

環境省総合環境政策局
環境経済課長 殿

日本製紙株式会社
代表取締役社長 中村 雅知

平成20年2月4日付け事務連絡に関するご報告

拝啓 平素よりご高配、ご指導を賜ります事厚く御礼申し上げます。

さて、掲題のご依頼いただきました件、下記回答させていただきます。

現在、社外の学識経験者に参加していただいている調査委員会にて実態調査および再発防止策について検証を行っているところです。今回のご報告には途中経過も含まれているため、不十分な点もあるかと思いますが、事情をご理解いただければ幸いです。

なお、平成20年1月16日付け事務連絡にてご依頼いただいた項目についても併せて記載いたしましたので、ご確認ください。

敬具

記

1. 古紙パルプ配合率に関して表示と実態との乖離がある紙製品全てについて、品質管理上記録が保管されている配合表や工場の製造記録等から確認した調査結果（但し、従来実施頂いている調査方法による方が便宜である場合には、調査結果と当該調査方法を採用した理由）

1) 調査方法

調査は、迅速に進めるため、コンピュータシステム上のデータベースに記録されている配合率実績データを集計してそこから古紙パルプ配合率で乖離のある紙製品を抽出し、次に工場に残されている資料とつき合わせてその集計データを検証いたしました。データベースには、大昭和製紙と日本製紙の合併に伴うシステム変更などにより、過去のデータが残されておらず、平成15年度以降しか集計することができませんでした。工場での検証につきましては、乖離のあった製品とその生産時期をランダムに抽出し、工場で操業に用いられている品質の基準書や、実際にパルプの流量計から得たデータなどが記録されている操業の日報といった過去の資料と、データベースとの間に整合性があるかを調査し、間違いのないことを確認いたしました。

2) 調査結果

別紙1および別紙2の通りです。実際の中紙パルプ配合率は操業で変動しているため、表中の中紙パルプ配合率（実績）は、上期下期ごとに加重平均した値とさせていただきます。また、各銘柄のトン数は販売数量（トン／月）で集計しています。グリーン購入法対象品と同法対象外に分けて集計しておりますが、グリーン購入法対象品の販売数量には、官公庁だけでなく民間企業等による購入分も含まれています。

2. 中紙パルプ配合率に関して表示と実態との乖離がある紙製品全ての販売時のブランド名と出荷時期

1) 販売時のブランド名

前述の調査結果をご参照ください。

2) 出荷時期

前述の通り、平成15年度からの乖離実態については判明いたしましたが、それ以前の乖離実態についてはデータが存在しないため不明です。葉書につきましては、以前ご報告の通りですが、特定の顧客ということ、また金券という特殊用途であったことにより、資料が残っておりました。それ以外の主な銘柄につきましては、調査委員会の下にある「乖離調査グループ」にて、いつ頃より乖離が発生していたかを調査しております。

3. 貴社が報告した原因の明確な根拠（表示の乖離の原因が意図的であるか否かの確認、意図的である場合にはその理由及び決定者も明らかにして下さい）

1) 乖離品が発生した背景

弊社は、現在の「再生紙」というネーミングが業界内に誕生する（昭和56年頃）以前から幅広く中紙を利用しており、中紙パルプの配合率を公表しておりませんが、主に新聞用紙や中質紙に配合し、販売を行ってまいりました。その当時の利用目的は、社会的に急務となっていたリサイクル問題（含、ごみ問題）の解決に寄与するためのものであり、コストダウンを目的としたものでもありました。従って当時、中紙の利用は、個々の紙の配合率よりも、トータルで多く使用することが弊社にとって第一義の目標となっております。そして、概ねその目標は達成されておりました。

その後、中紙パルプの配合率を規定した製品の需要が拡大しました。このような状況の中で、受注当初は公称通りに中紙パルプを配合できていた銘柄もありましたが、一方で、厳しい品質基準（塵・ダート・カール・搬送・印刷等の各種加工適性、特に上質と同等の品質要求）をクリア出来ないまま、将来の技術革新を想定して安

易に受注してしまったものもあり、今日に至るまでその乖離を埋めきれませんでした。また、操業現場では、あくまでも古紙使用量の増大を目指していたため、古紙パルプの配合率自体を本来の品質保証の対象と考えておらず、営業と操業現場との間に共通の認識がなかったことも事実です。

2) 技術的な背景について

技術的な原因の根拠として、以下の事例を挙げさせていただきます。

① 購入古紙の品質

中国への古紙の輸出などにより古紙の絶対量が不足し、相対的に質の悪い古紙が増加している傾向にあります。弊社F工場において製造した古紙パルプに含まれるダート、いわゆる印刷インキ等の粕の時系列データを次に示します。

年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
個数※	3,100	4,100	4,700	5,600	4,900

※) 1 m²あたりに存在する径が 100 μ m以上のダート個数

また、弊社I工場において製造している古紙パルプの白色度が、平成15年には63%を維持していたものの、平成19年には61%を切るまでに低下してきています。再生紙に用いる古紙パルプの原料は新聞古紙を主体にしていますが、製造設備の改善、脱墨用薬品の改良、脱インキの不十分な古紙パルプの系外排出量増などにも関わらず、古紙パルプの品質が維持できなくなっているのが現状です。

② 印字適性

古紙パルプを配合した64 g/m²の当社PPC用紙にて、コピー機（高速プリンター）での走行性を確認した結果の一例が次の表です。

古紙パルプ配合率	40%	70%	85%	100%
紙詰まり	○	○	△	×

温度や湿度の変化に伴う紙の収縮や、紙が丸まるカールによって、コピー機内でPPC用紙が紙詰まりを起こします。古紙パルプ配合率を高めると、紙詰まりを多発させる傾向があります。

3) 乖離の決定者について

過去にさかのぼり実際に配合可能な率と異なる基準で受注判断するに至った経緯・原因を調査し、責任の所在を明確にするため、現在、調査委員会の下にある「受注判断調査グループ」にて社内調査を実施中です。

4. 納入先に対するこれまでの品質保証に関する方法

1) 納入先への品質保証に対する対応

納入先への品質保証に対する対応作業は、下記の活動となります。

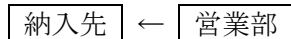
- ・ 製品説明等の営業活動
- ・ 受注受付と社内生産検討（製造銘柄の登録）
- ・ 既存銘柄（製造銘柄）の生産と品質対応作業
- ・ 既存銘柄（製造銘柄）下の個別納入先向け販売銘柄の登録作業
- ・ 配合証明書類の提出作業

※) 銘柄には製造銘柄と販売銘柄があります。生産するにあたって処方で区分されるものが製造銘柄となります。処方が同じでも、販売先向けが異なるものがあり、これを販売銘柄と呼びます。販売銘柄は、包装仕様、断裁等の処方に関係ない営業部の契約について、営業部裁量で登録可能です。従って、製造銘柄は販売銘柄を包含することになります。

以下、それぞれの活動について調査結果を報告します。

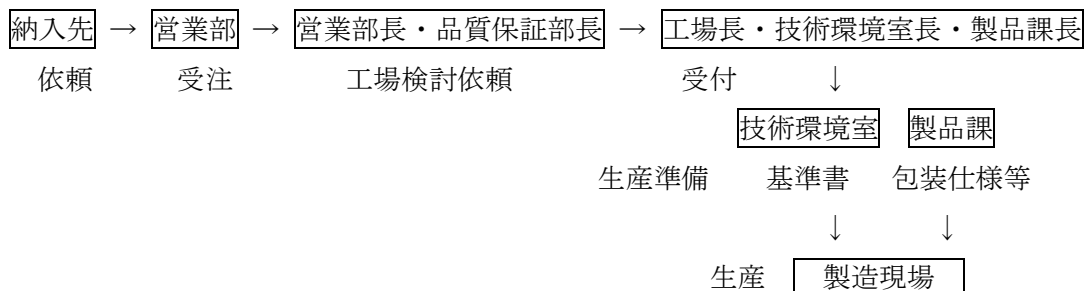
① 製品説明等の営業活動

営業部にて、カタログ、サンプル帳、紙製品手帳等に再生紙銘柄が登録されておりました。



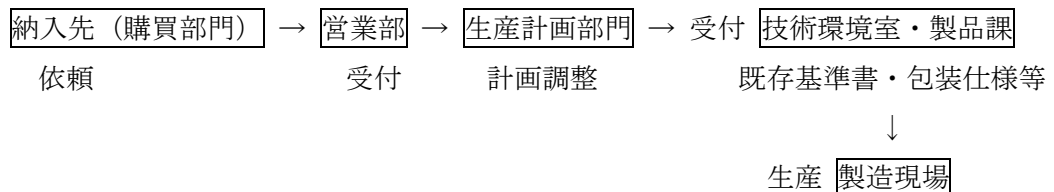
② 受注受付と社内生産検討（製造銘柄の登録）

弊社再生紙の銘柄で古紙パルプ配合率の乖離が確認されました。受注受付と社内生産に当たり、現在、下記のような検討作業が行われる仕組みがあります。再生紙の生産開始がかなり前の事であり、遡ってその判断がいつ、どのようになされたか、調査を行っているところです。基準書中には、用紙品質の記載とともに、古紙パルプ配合率が記載されていましたが、守るべき配合率としての記載にはなっていないませんでした。

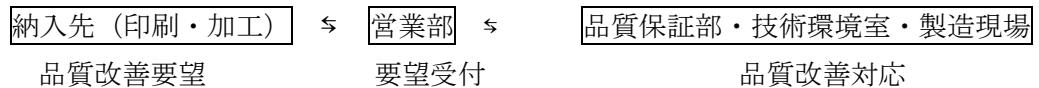


③ 既存銘柄（製造銘柄）の生産と品質対応作業

既に生産可能と判断され登録された銘柄は、納入先から営業が受注し、既存の基準書に基づき生産が行われます。なお操業時の古紙パルプ配合率は、一般の用紙品質の維持を最優先として、古紙パルプの品質変動時や操業トラブル対応時に、工場の裁量で変更される場合があります。基準書の古紙パルプ配合率は目標値と解釈しておりました。

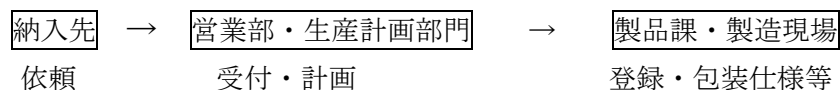


納入先から品質改善の要望が出された時、営業部で要望を受理し、品質保証部、技術環境室、製造現場が連携して品質対策を実施します。再生紙に関する品質改善要望は、先方の印刷・加工部門・技術部門からの要望が多く、内容は古紙に由来する異物、用紙表面強度、搬送性が主なもので、品質改善要望を満たすことが品質保証と考えて、古紙パルプ配合率を変更する等の対応を行った事実がありました。



④ 既存銘柄（製造銘柄）下の個別納入先向け販売銘柄の登録作業

既に登録された製造銘柄に対して、包装仕様や断裁仕様などを変える等の範囲で個別の納入先向けの販売銘柄を営業部の権限で登録することができます。この販売銘柄の中にも、納入先が古紙パルプ配合率を求められるものがあり、その場合に工場の基準書に要求事項が反映されていないことが判明しました。この様な契約の事実も確認され、この場合には、古紙に関する各関係部門の対応可否の判定がなされないままに生産されていました。



⑤ 配合証明書類の提出作業

納入先からの古紙パルプ配合の提出要請があった場合に、営業部だけで資料を作成し提出していた事実がありました。また営業部と品質保証部で資料を作成し提出する場合に、従来の提出実績に基づいた古紙パルプ配合率で提出してしまし

た。

納入先	↔	営業部
依頼		作成・提出

納入先	↔	営業部・品質保証部
依頼		作成・提出

2) 社内における品質確認の監査について

古紙パルプ配合率等の品質確認の制度などについて、これまで監査は行われていませんでした。なお、古紙パルプの使用状況は、製品生産量に対する古紙パルプの使用量として、その実績を確認できますが、個別の銘柄毎に古紙パルプ配合率の基準と照らし合わせる等によって、品質管理に用いるものとなっていませんでした。

5. 納入先に対する乖離状況の報告状況、及び、乖離問題の報道後のこれまでの緊急の対応策と、今後表示の適正化までの当面の間の対応策

1) 納入先に対する乖離状況の報告

担当者が納入先に出向いて口頭、もしくは文書にてお詫びと乖離内容の説明を行っております。代理店等の流通を通して問い合わせのあった納入先に対しては、同様に文書を作成し、流通を通じて回答しております。

2) 乖離問題報道後のこれまでの緊急の対応策

該当品の生産および出荷を停止し、その後以下の対応をしております。

① 製品に古紙パルプ配合率の表示がある場合

使用を希望されないお客様からは製品を返品いただき、代替品の提案等個別に対応しております。使用を希望されるお客様に対しては、適正な表示に改めた上での再出荷、または製品に古紙パルプ配合率が表示と異なる旨の文面を記載したラベルを貼付した上で販売しております。2月13日時点での返品、および再販売の実績は下記のとおりです。なお、弊社といたしましては、返品された製品が無駄にならないよう、お客様のご了解をいただきながら再販売に努めてまいります。

印刷用紙：	返品	3, 968トン、	再販売	850トン
情報用紙：	返品	174トン、	再販売	2トン

② 製品に古紙パルプ配合率の表示がない場合

使用を希望されるお客様に対しては、実配合率をご説明しご了解いただいた上

で販売を行っております。

③ 環境・社会貢献への取り組み

今回の問題に対し、弊社は広く社会へのお詫びの意味を込めて、失われた信頼を回復するため、これまで携わってきた環境・社会貢献活動の充実強化に加え、将来の環境保全と、紙のリサイクル活動の一層の促進などを考え、製紙メーカー5社と日本製紙連合会との連名にて、基金を創設し拠出することを1月31日に決定し、公表いたしました。今回の措置は、弊社の深い反省の上に立ったものです。

3) 今後表示の適正化までの当面の間の対応策

① ラインナップの見直し

- ・ 工場の古紙パルプ配合率実態調査に基づき、古紙パルプ配合製品および古紙パルプ配合率については、確実に保証できる製品・配合率に絞込みを行います。

② 新製品の開発

- ・ グリーン購入法対応製品等の検討、開発を行います。

6. 表示の適正化のための具体的スケジュール、及び、そのための管理方法の改善内容と検証方法

1) これまでの対策

当初の対策として、弊社ブランドの古紙パルプ配合率の乖離品については、生産および販売の中止を指示いたしました。また、当該製品に関する一切の受注を中止いたしました。その後、暫定で営業部門、製造部門、品質保証部門などによる相互確認などによって受注および生産を行っておりましたが、2月14日付けで「古紙パルプ配合処方」の社内確認ルールについて（暫定）」を関係部門に発信し、運用を開始しました。この暫定ルールは、受注および生産に当たり営業、原材料調達、生産管理、製造、品質保証の各部門で、契約面（遵法性など）および供給面（量、品質、原料、継続性など）を確認し、対応可否を総合判定するものです。現在開発しているルールおよびシステムが本格稼動するまでのものであり、受注および生産が不可能な製品ならびに消費者に誤解を招く製品の受注や生産を防止することを主な目的としています。

2) 今後の対策

① 受注の適正化

工場を含む全社を対象とした手順を設定し、今後この手順に基づいたシステム

による運用を行います。具体的には、これまで顧客に渡していた保証書は廃止し、品質保証部、営業部、工場（技術環境室）の3部門の承認を必要とする「品質仕様書」を発行することを予定しています。また、汎用品についてはウェブサイトでの「品質仕様書」を公開し、その他の特注品やOEM品といった特定銘柄については顧客に提出いたします。特に、古紙パルプ配合率、森林認証などの基準がある銘柄については、特別扱いとして注意を促す予定です。

情報システムの仕様設計と構築を進め、ウェブサイトへの掲載も含めて4月より順次移行いたします。

② 古紙パルプ配合率の担保方法

今後、社内での古紙パルプ配合率の確認体制、古紙パルプ配合率を保証する銘柄リストといった情報を本社・工場で共有いたします。工場においてはリスト化された銘柄を生産する際、古紙パルプ配合率の基準を「品質仕様書」によって操業現場へ指示し製造現場での基準書に明記させ、生産終了後は速やかにその結果を本社に連絡することとします。また、古紙パルプ配合率が基準を外れる場合は、本社営業部門に連絡し生産中止など本社指示に従うものとします。上記を古紙パルプ配合率管理手順として文書化し、第三者による運用状況の監査を受ける予定です。なお、弊社も参加している日本製紙連合会の委員会で担保方法を検討しておりますが、こちらとも連携しながら進めてまいります。

第三者監査については、以下の通りです。

a) 監査範囲

- ・ 古紙パルプを配合している製品の古紙パルプ配合率管理状況。
- ・ 古紙パルプ配合率の顧客宛証明書発行管理状況。

b) 対象事業所

本社、支社、工場

c) 監査内容

- ・ 古紙パルプ配合率管理に関わる手順
- ・ 古紙パルプ配合率証明書「品質仕様書」発行に関わる手順および記載内容

なお、FSC、PEFCの森林認証機関であるSGSジャパン（株）にモデルケースとして本社（2月18日）、八代工場（2月21日）の監査を実施することとしております。

7. 表示が適正化され、製造が再開された後の古紙パルプ配合製品のラインナップ及び最大月間生産量

1) ラインナップと最大月間生産量

表示が適正化された場合の古紙パルプ配合製品の主なラインナップと最大月間生産量は次の通りです。なお、算出にあたっての前提条件を表下に記載いたします。

区分	品種	銘柄	配合率 (%)	生産量 (トン/月)
印刷用紙	上質紙	リサイクル上質70	70%以上	4,000
		リサイクル上質T-6	70%程度	500
		リサイクル上質	30%程度	700
		計		5,200
	中質紙	グリーンランド	70%以上	1,000
		更	70%以上	600
		計		1,600
	塗工紙	リサイクルコートT-6	20%程度	1,400
		リサイクルマットT-6	20%程度	1,000
		リサイクルコートL	30%程度	800
		計		3,200
	微塗工紙	リサイクルS	70%程度	700
		リサイクルS2	70%程度	800
		リサイクルSソフト	70%以上	400
		計		1,900
合計				11,900
情報用紙	コピー用紙	銘柄未定(OEM品)	70%以上	4,500
		銘柄未定	20%程度	6,000
		計		10,500
	フォーム用紙	銘柄未定	70%以上	600
合計				11,100
合 計				23,000

※) 平成20年度の予測であり、出荷をお約束するものではありません。

※) 古紙パルプ配合率の公称基準は、古紙の品質などにより変更する可能性があります。

※) コピー用紙のうち古紙パルプ20%程度配合品の数量にはOEM品を含みます。

以 上

別紙1 印刷用紙《乖離品》

品 種	銘 柄	古紙パルプ配合率		販売数量					古紙パルプ配合率（実績）									生産工場とマシン番号 （塗工紙は原紙マシン）
		公称	実績	H15	H16	H17	H18	H19/上	15/上	15/下	16/上	16/下	17/上	17/下	18/上	18/下	19/上	
		%	%	t/月	t/月	t/月	t/月	t/月	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
■グリーン購入法対象品																		
上質紙	リサイクル上質100	100	75 ~ 82	2,910	3,574	3,887	4,256	4,309	81	77	82	79	78	75	75	76	80	石巻(4・6)、富士(7・11)
中下級紙	グリーンランド100	100	67 ~ 83	491	425	531	502	287	71	72	67	70	73	68	70	71	83	石巻(4・6)
上質コート紙	リサイクルコート100	100	43 ~ 64	2,436	2,752	2,990	2,975	2,836	43	55	53	53	58	64	62	63	57	吉永(N2)
	リサイクルマット100	100	44 ~ 63	3,223	3,759	4,616	5,234	4,852	44	57	55	51	57	62	58	63	58	吉永(N2)
	小計		44 ~ 63	5,659	6,511	7,607	8,209	7,688	44	56	54	52	57	63	60	63	58	
上質軽量コート	リサイクルコートL100	100	26 ~ 62	992	708	811	1,084	971	37	27	26	33	30	28	38	53	62	石巻(7)、富士(13)
	リサイクルコートLマット	70	30 ~ 43	136	193	441	547	319	33	30	35	35	34	37	37	43	37	富士(13)
	小計		27 ~ 56	1,129	901	1,252	1,631	1,289	37	27	28	34	31	32	37	50	56	
微塗工印刷紙	リサイクルS-100	100	52 ~ 72	496	442	485	624	642	57	56	52	60	54	61	65	69	72	伏木(6)、富士(13)
	リサイクルS2-100	100	86 ~ 100	700	661	514	415	367	94	94	86	88	94	100	95	97	96	富士(11・13)
	リサイクルSソフト100	100	56 ~ 85	241	427	332	510	473	61	60	56	59	67	73	83	85	79	伏木(6)、富士(11)
	小計		69 ~ 84	1,437	1,530	1,331	1,549	1,482	76	75	69	71	73	78	79	81	80	
計			57 ~ 68	11,626	12,941	14,607	16,146	15,055	57	61	62	61	63	65	64	67	67	
■グリーン購入法対象外																		
上質紙	PB/特抄品（30銘柄）		29 ~ 46	1,885	1,862	1,786	1,745	1,674	34	34	33	34	33	29	35	32	31	石巻(4)、富士(7)、八代(6)
中下級紙	一般品	70	44 ~ 54	3,435	3,175	2,993	2,863	2,608	49	48	48	45	46	48	45	44	45	石巻(4・6・8)、富士(7)、伏木(5)
	PB/特抄品（22銘柄）		41 ~ 56	938	767	503	523	512	41	47	49	50	47	43	50	47	56	旭川(5)、石巻(6)、富士(7・12)、伏木(5)
	小計		46 ~ 55	4,372	3,942	3,497	3,385	3,120	48	48	49	48	48	49	48	46	50	
色上質紙	色上質	70	38 ~ 43	2,581	2,759	2,894	2,582	2,758	42	43	43	39	39	39	38	41	39	石巻(2)、富士(2・7)
	再生色上質	100	44 ~ 71	401	130	162	170	44	44	61	67	67	67	69	70	71	71	石巻(2)、富士(2・7)
	小計		40 ~ 44	2,982	2,889	3,055	2,752	2,801	42	44	44	41	40	41	41	43	40	
上質コート紙	PB/特抄品（24銘柄）		13 ~ 26	1,665	1,951	2,119	1,478	1,481	15	14	13	13	19	19	26	23	25	石巻(N2・N4)
上質軽量コート	PB/特抄品（23銘柄）		8 ~ 24	2,297	1,966	2,170	2,024	1,660	8	10	11	8	8	16	16	19	16	石巻(7・N4)、富士(13)
微塗工印刷紙	PB/特抄品（50銘柄）		27 ~ 50	3,169	3,358	4,278	4,099	4,035	30	30	29	27	45	50	44	41	40	富士(11・13)、石巻(8・N4・N5)、伏木(6)
中質コート紙	PB/特抄品（12銘柄）		33 ~ 46	1,865	2,029	1,705	1,904	1,053	43	39	40	38	37	33	36	45	46	石巻(7)、富士(11・13)
はがき用紙	郵便はがき	40	1 ~ 1	621	546	421	528	906	1	1	1	1	1	1	1	1	1	八代(6)
	再生25Aインディア	5	0 ~ 2	-	-	3	4	6	-	-	-	-	2	0	0	0	0	伏木(4)
	計		31 ~ 38	18,858	18,541	19,034	17,920	16,736	33	33	33	31	34	37	36	37	35	
合 計			42 ~ 51	30,484	31,482	33,641	34,066	31,791	42	44	45	43	46	50	49	51	50	

別紙2 情報用紙・封筒用紙《乖離品》

品 種	銘 柄	古紙パルプ配合率		販売数量					古紙パルプ配合率（実績）									生産工場とマシン番号
		公称	実績	H15	H16	H17	H18	H19/上	15/上	15/下	16/上	16/下	17/上	17/下	18/上	18/下	19/上	
		%	%	t/月	t/月	t/月	t/月	t/月	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
■グリーン購入法対象品 P P C用紙	P P C用紙OEM品 *1	100	29 ~ 62	6,322	6,273	6,692	5,692	5,035	29	34	34	35	36	39	39	49	62	吉永(N1)・小松島(1)・八代(N1) 八代(N1)
	リボンナチュラル100	100	24 ~ 39	820	1,164	1,101	1,323	1,545	39	34	24	27	33	37	29	29	31	
	小計	100	30 ~ 55	7,142	7,437	7,793	7,015	6,580	30	34	32	33	36	39	37	44	55	
ノート用紙	再生ノート用紙	80	23 ~ 37	0	75	95	97	116			34	23	31	32	36	35	37	吉永(N1)
フォーム用紙	リサイクルフォームN	70	4 ~ 42	443	513	481	431	504	42	19	11	11	8	12	8	4	4	吉永(N1)、鈴川(8) 鈴川(8)
	リボンN I P	70	4 ~ 36	40	32	23	22	17	36	19	17	13	8	12	8	4	4	
印刷用紙（情報関連）	情報関連印刷用紙OEM品	70	23 ~ 54	135	157	171	172	165	27	23	52	50	52	54	47	53	53	八代(N1)
事務用窓付封筒（晒）	ラップ他晒クラフト	100	19 ~ 59	96	75	105	107	110	59	19	21	24	20	25	24	26	28	富士(7) 鈴川(4)
	ラップ他晒クラフト	70	4 ~ 12	941	820	1,134	1,119	1,051	12	11	11	12	8	6	6	4	4	
事務用窓付封筒（半晒）	R Cオリンパス	40	4 ~ 15	1,889	1,315	1,726	1,541	1,520	15	13	10	9	11	7	9	4	5	鈴川(4・7)
その他	記録紙原紙OEM品	100	0 ~ 1	488	370	295	221	44	0	1	1	1	1	0	1	0	1	白老(8)
計			25 ~ 39	11,173	10,795	11,824	10,724	10,105	25	26	27	26	27	30	28	32	39	
■グリーン購入法対象外 P P C用紙	P P C用紙OEM品 *2	100	8 ~ 16	2,332	2,385	2,604	2,509	2,063	14	16	12	10	11	8	11	10	8	鈴川(8・9)、小松島(1) 小松島(1)、八代(N1) 小松島(1)、八代(N1) 八代(N1)、小松島(1) 小松島(1) 小松島(1)
	リボンクリーン100	100	7 ~ 10	254	346	431	290	283	10	9	9	9	8	7	9	9	7	
	P P C用紙OEM品 *2	70	12 ~ 19	3,530	3,000	2,869	3,199	3,623	18	19	15	13	14	13	19	19	12	
	リボンP P Cシリーズ	70	14 ~ 22	398	465	557	578	547	22	20	19	16	15	14	22	19	20	
	P P C用紙OEM品 *2	30	16 ~ 33	84	231	324	310	338	25	33	22	21	19	19	16	16	16	
	リボンP P Cシリーズ	30	11 ~ 19	29	51	66	85	83	11	19	14	16	13	14	15	16	17	
小計			11 ~ 18	6,627	6,478	6,851	6,971	6,937	16	18	14	13	13	11	16	15	11	
インクジェット用紙	R Y I J	100	34 ~ 73	30	52	68	70	49	73	57	56	50	52	53	44	47	34	吉永(N1) 旭川(4)
	再生 I J ハガキ	40	1 ~ 1	191	225	135	147	313	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
ノーカーボン	リボンC C P 100	100	33 ~ 46	50	53	106	126	109	45	34	33	38	37	36	39	46	36	石巻(5)、鈴川(8)
ノート用紙	再生ノート用紙	80-55	1 ~ 3	0	209	263	255	208			1	1	1	1	1	2	3	八代(4)
フォーム用紙	リサイクルフォーム	70	7 ~ 16	1,137	1,279	1,414	1,398	1,506	11	16	10	14	12	8	8	9	7	鈴川(8)、吉永(N1) 吉永(N1)
	リサイクルフォーム	50	10 ~ 46	287	258	243	240	220	46	19	10	13	17	14	18	18	19	
感熱記録紙	再生サーマル	70	1 ~ 3	19	18	20	20	20	1	3	1	1	3	2	1	2	2	勇弘(5) 勇弘(5)
	再生サーマル	50	1 ~ 3	931	1,072	1,168	1,227	1,245	1	3	1	1	3	2	1	2	2	
事務用窓付封筒（半晒）	半晒クラフト	40	5 ~ 10	—	112	140	262	392			10	9	10	8	8	5	5	鈴川(7)
その他	記録紙原紙OEM品	100	8 ~ 12	83	26	1	—	—	12	8	8			8				鈴川(8) 鈴川(4) 伏木(4) 鈴川(4) 鈴川(8)
	再生色クラフト	100	9 ~ 36	184	147	178	179	170	29	26	35	34	31	9	34	36	30	
	熱転写紙 T R W	100	6 ~ 27	23	26	29	22	11	18	14	17	7	6	13	17	9	27	
	再生色クラフト	70	2 ~ 5	46	36	67	59	91	5	4	4	3	2	3	4	2	2	
	記録紙原紙OEM品	50	0 ~ 12	4	3	4	5	4	12	8	0	8	8	8	8	8	8	
計			10 ~ 16	9,612	9,996	10,686	10,981	11,275	15	16	12	12	12	10	13	13	10	
合 計			19 ~ 23	20,786	20,790	22,510	21,705	21,380	20	22	19	19	19	20	20	22	23	

[注]

P P C用紙のO E M品は、納入先により多数のブランドに別れます。（*1で56、*2で131、計187ブランド）

生産工場の鈴川とは、富士工場の一部である鈴川地区の製造所のことです。

生産工場の吉永とは、日本大昭和板紙吉永（株）のことで、生産を委託したものです。